

研修報告

総務常任委員会

新潟県長岡市

やまこし

山古志支所を視察



去る9月29日(火)、平成16年10月、新潟中越地震で壊滅的な被害を受け、その後、復興をとげた長岡市山古志地域を視察してきました。

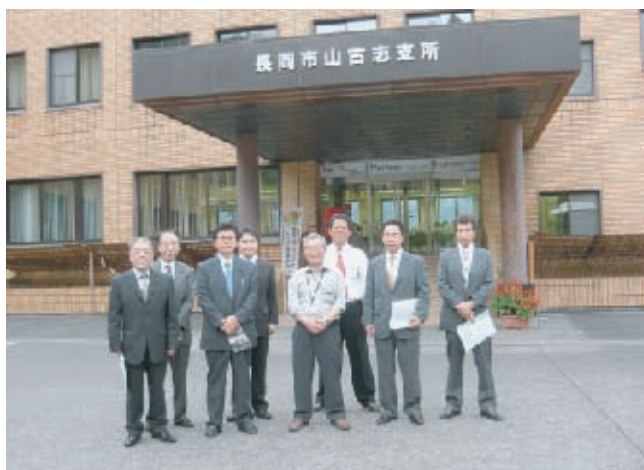
山古志地域は、新潟県のほぼ中央に位置し、自然豊かな山間の丘陵地で、錦鯉の養殖や山の斜面を切り開いて作った棚田、「牛の角突き」と呼ばれる闘牛などで、知られています。平成16年10月23日、震度6強という地震に見舞われ、家、牛舎の崩壊、田・畑の崩落、



道路の寸断、電話線が切断され、陸の孤島となり、25日には、全住民が自衛隊ヘリコプターにより避難し、避難所・仮設住宅生活を余儀なくされたがその後、幾多の困難、苦勞を乗り越え、復興、再建を進め、平成19年12月仮設住宅を退去するに至った。

震災から5年がたち、所々の山に地すべりの跡が見られたぐらいで、ほとんど復興されていますが、災害時、水没した家屋が現在もそのまま残

っており、自然災害の恐ろしさを実感するとともに、ここに至るまでの、行政、住民の苦勞は計り知れないものがあつたことを痛感しました。
本町においても、いつ大地震が起きるかわかりません。普段の生活からいざという時に備える、住民一人ひとりの心がけ、隣近所、自治会等の互いの支え合い、助け合いが大切であることを学びました。



(川がせき止められ水没した家屋)

■長岡市(旧山古志村)の概要■

- 【人 口】 1,360人
(災害発生時2,167人)
- 【世帯数】 493世帯
(災害発生時690世帯)
- 【面 積】 39.83km²
(長岡市全体840.88km²)

研修報告

教育民生常任委員会

ながわ

長野県長和町を視察



去る10月6日、より新しい医療助成制度の確立と委員各位の資質の向上に資するため、長野県長和町を視察してまいりました。

長和町は、合併以前より、2歳未満児を対象とし、医療助成制度を施行していましたが、その後、平成20年12月17日、「あつたか子育て長和の会」により、中学校卒業まで対象年齢を引上げてほしいと要望があり、町としても、町長・担当課・財政担当課等と協議し、会の代表者と懇談会を開催し、協議を幾度となく重ねた結果、要望の引上げよりもさらに高校卒業までと拡充することとなった。



制度拡充決定後、町では、県国民健康保険団体連合会や医療機関と協議し、レセプト1枚、300円を自己負担とし、給付額は、実際に掛かった医療費から付加給付や高額療養費・自己負担300円を控除した金額で給付することに決定となり、その他にも7,600円を上限とする高校生通学費補助、出生祝金、冬季期間に限り、福祉灯油助成券として5,000円分を配布、腎臓機能障害及び特定疾患治療通院費補助を、低所得者・障害者にも行っていました。

長和町は、「健康を保ち、家庭を明るく、安らぎのある町をつくり出す」を目指し、職員一丸となって取り組んでいます。本町においても単独事業として医療助成制度はありますが、他市町村の類似した制度を研修し、なお、一層の制度充実を図る上では、大変参考となり、今後の福祉・医療制度のあり方などの資質の向上となりうる研修となりました。



■ 長和町の概要 ■

平成17年10月1日

旧長門町と旧和田町が合併し、誕生した。

【人口】 7,248人

【世帯数】 2,697世帯

【面積】 183.95km²

【65歳以上】 2,359人

【高齢化率】 32.5%

